

中部ESD拠点運営委員会（第5回）議事メモ

日 時 平成20年5月12日（月）13時00分～15時30分

場 所 中部大学名古屋キャンパス（810号室）

出席者 竹内委員長、千頭副委員長、寺井、長谷川、高山、桜井（新海の代理）の各委員
オブザーバー：羽後

事務局 古澤、岡本

議 事

1. 国連大学への提出書類について

事務局から、協議会会員へお願いしたアンケート（「中部ESD拠点協議会会員諸団体の皆様へ」）の返答内容や、アニュアルレポートを国連大学に提出した旨の報告があった。次いで、5月23日までに提出するエバリュエーションテーブル（RCE Chubu、RCE Chubu Evaluation Table (Draft)）について種々意見交換、確認を行い、以下のように措置することとした。

①各項目を記述する担当の割当

- Shonaigawa Project (Bays) … 市民推進会議
- Manufacturing and Community … 事務局（未実行）
- Energy and Community … 事務局（未実行）
- Formal Education … 名市大、小学校、他大学
- Non-formal Education … 環境大・EPO
- Informal Education … 市民推進会議・岐阜ランチ
- items to be developed … 拠点HPチーム
- Activities(Commission) … 事務局（会員アンケート情報を踏まえ）
- Governance … 事務局（運営委員会の議論を踏まえ）
- Activities (Steering Committee) … 事務局（運営委員会の議論を踏まえ）
- Advisory Board … 事務局（未実行）
- Monitoring Board … 事務局（未実行）

②エバリュエーションテーブルの編集、たたき台作成（次回運営委員会までに作成）は事務局で行う。

③各項目の記述は原則1頁、英語で行い、各担当者は5月19日までに事務局に送付する。

④Decision Making 欄には、自己評価（反省点：これからの課題）として、広報PR不足、活動を広げることが課題、財政基盤構築、国内・国外のRCEとの関係構築、参加会員とのつながり、運営委員会のビジョン構築、経済アクターとの関係構築等、を記述する。

2. 今後の活動について

寺井委員から、今後の活動に関する情報提供として、「伊勢・三河湾流域の持続可能な発展の

ための ESD 拠点の活動―土岐川・庄内川流域をモデルケースとして―と題して、パワーポイントでの説明があり、関連して、森の健康診断やフードマイレージによる CO2 の発生量測定等を、各大学の学生間による交流で行うことができるのでは、という提案がされた。

3. 科学技術振興機構 (JST) 「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究募集について

「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究募集について、募集要項に基づき、その内容確認と意見交換が行われ、募集要項に指定されているプロジェクトカテゴリーのカテゴリーⅡ（「問題解決のための技術（システム）・手法の開発と実証（期間中に PDCA サイクルを最低一回まわす）を目指すもの」）で応募することを確認した。また、高山委員から、研究募集の企画内容（「持続可能で多様な伊勢湾流域圏のデザイナー―地球サミット起源の諸政策への流域圏からの責任ある応答」、A4・2 頁による資料）の提案があり、次回運営委員会までに、各団体が貢献できる内容をまとめて持ち寄ることとした。

4. その他

事務局から、協議会の HP 作成の進捗状況や、ロゴマークに関して今後議論しなければならない旨の報告があった。

5. 次回運営委員会の開催について

次回運営委員会を、国連大学へ提出するエバリュエーションおよび「地域の根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究募集の企画についての議論を中心に、5 月 22 日（木）18 時から、名古屋キャンパスで開催することとした。

以上